

# 台風第24号に対する農作物技術対策

平成30（2018）年10月2日

農政部経営技術課

## I 普通作物

### 1 大豆

- (1) 湛水しているほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 風雨により莢等が傷んだ場合には、刈遅れによる腐敗粒の発生が懸念されるので、適期に収穫する。

### 2 はとむぎ

- (1) 湛水及び浸水したほ場は、速やかに排水に努める。

## II 野菜

### 1 なす

- (1) 誘引がずれたものはやり直し、側枝が折れたものはせん定する。
- (2) 風雨により発生した傷果は摘果する。損傷の著しい葉も摘葉する。
- (3) 病害虫の発生が懸念されるため、防除を徹底する。
- (4) 窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

### 2 いちご

- (1) 冠水しているほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 風雨により葉や株が傷んだ場合には、葉を取り除き、炭疽病や灰色かび予防のため、速やかに薬剤を散布する。
- (3) ベッドが崩れた場合には、速やかに補修を行う。
- (4) 破損したハウス等は、速やかに修繕を行う。
- (5) 殺菌剤等散布時に窒素入り葉面散布剤等を混用し、樹勢の維持に努める。

### 3 にら

- (1) 冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 破損したハウスやビニールは、早急に修繕を行う。
- (3) 収穫中のにらで、葉の損傷が著しい場合は、捨て刈りし再生させる。
- (4) にら葉腐病、軟腐病、白斑葉枯病の発生が懸念されるため、登録のある薬剤で防除する。
- (5) 必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

### 4 ほうれんそう

- (1) 冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 破損したハウスやビニールは、早急に修繕を行う。
- (3) 播種後、間もない被害の場合は必要により播き直す。
- (4) ほうれんそう疫病、べと病等、多湿条件で発生する病害の発生が懸念されるため、登録のある薬剤で防除を行う。
- (5) 必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

### 5 きゅうり

- (1) 冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。
- (2) 破損したハウスやビニールは、早急に修繕を行う。
- (3) 風により損傷した茎葉や傷果を除去し、誘引がずれたものは誘引をやり直す。
- (4) きゅうり褐斑病、べと病等、多湿条件で発生する病害の発生が懸念されるため、登録の

ある薬剤で防除を行う。

(5)必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

## 6 さやいんげん

(1)冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。

(2)破損した支柱やネットは修繕し、必要により誘引をやり直す。

(3)いんげん菌核病等、多湿条件で発生する病害の発生が懸念されるため、登録のある薬剤で防除を行う。

(4)必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

## 7 ブロッコリー

(1)冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。

(2)倒伏した株は無理に起さず、自然な起き上がりを待つ。

(3)ブロッコリー黒腐病、べと病等、多湿条件で発生する病害の発生が懸念されるため、登録のある薬剤で防除を行う。

(4)必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により草勢の維持に努める。

## 8 青パパイヤ

(1)冠水したほ場は、速やかに排水対策を行う。

(2)強風により損傷した葉や果実は切除する。

(3)傷口から病害が発生することがあるため、登録のある薬剤で防除を行う。

(4)必要により窒素入り肥料の葉面散布や追肥により樹勢の維持に努める。

# III 果 樹

## 1 りんご

(1)落下した果実は速やかにほ場外へ持ち出し処分する。

(2)枝が裂けた場合は、接着可能な枝は縄などで固く縛るか、かすがいなどで接着して支柱などに固定する。

(3)倒伏樹について回復可能なものはできるだけ早く起こし、丈夫な支柱で支える。

(4)台木付近等が折れ樹勢維持が困難な樹は、伐木し園外で適正処分する。

(5)葉傷み等による病害発生が懸念されるので、早急に殺菌剤散布を行う。

(6)多目的防災網が切れた場合は、早急に補修する。

## 2 な し

(1)落下した果実は速やかにほ場外へ持ち出し処分する。

(2)葉傷み等により病害発生が懸念されるので、秋期防除の徹底を図る。

(3)破損した多目的防災網等は、収納前に修繕する。

(4)なし棚・網棚等の施設の破損が発生した場合は、早急に修繕する。

## 3 ぶどう

(1)落下した果実は速やかにほ場外へ持ち出し処分する。

(2)傷等により病害発生が懸念されるので、秋期防除の徹底を図る。

## 4 も も

(1)枝が裂けた場合は、接着可能な枝は縄などで固く縛るか、かすがいなどで接着して支柱などに固定する。

(2)倒伏樹について回復可能なものはできるだけ早く起こし、丈夫な支柱で支える。

(3)台木付近等が折れ樹勢維持が困難な樹は、伐木し園外で適正処分する。

(4)傷等により病害発生が懸念されるので、秋期防除の徹底を図る。